

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット1階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成29年6月12日	評価結果確定日	平成29年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々を整備して下さっている花壇や川にいる水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事やドライブ等、外出の支援にも力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から、特に食事に関しては栄養管理と調理、盛り付けにも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様の個性やこれまでの生活習慣を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たたみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

友人が毎日訪問して会話を楽しむ、毎月、保育園の園児たちとの交流を楽しむ、地域の医院で開催される「健康教室」に参加し、運営推進会議で報告する等、常に地域や地域住民との交流を積極的に行っている。運営推進会議に毎回10名程度の家族が参加し、会議後に家族会を開催する等、家族が意見を言いやすい環境を整え、要望を実現する事で家族との信頼関係を築いている。また、介護計画とモニタリングの一連の流れが確立され、理念に沿った支援に繋がっている。食事の下ごしらえを一緒にする等、入居者の力の発揮を促している。入居者は「いつも食事が美味しい」と賞賛し、食事の歓談も楽しみのひとつになっている。地域に根ざし、職員と入居者の信頼関係が構築された家族的な笑顔あふれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝理念を唱和し、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき日々の介護に当たっています。理念をご入居者やご家族にも見える場所に掲示し、行事の際には、参加者全員で唱和しています。	理念は、開設時にホーム長と全職員で話し合っって作成している。入居者や家族に理解して頂くため、また、毎日の支援に活かすために、理念を具体的に5項目に分けて説明している。理念に関する研修を行い、職員の意識付けや目標を統一し、理念に沿った支援の実践に繋いでいる。	理念に基づき「充実したサービスの提供」を目指す中で、若い職員や中間層の人材確保と育成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方が声を掛けて下さいます。近隣の保育園、中高生やボランティアの方も継続して訪問され、交流しています。友人やご近所の方の来所も歓迎し、入居後も交流が続けられるように支援しています。	友人が毎日訪問して会話を楽しむ、地域の行事や自治会の活動に参加し、地域の方と話をする、毎月、保育園の園児たちと歌や手遊びを楽しむ等、地域の人々と日常的に交流する事が入居者の笑顔に繋がっている。地域の医院で開催される「健康教室」に参加し、運営推進会議で報告する等、地域に根ざし、地域住民との繋がりを積極的に支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご入居者の日々の暮らしの様子やホームの行事や研修内容の報告を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くのご家族に参加して頂ける様、2ヶ月に1度、水曜と土曜交互に開催しており、暮らしの様子や行事、研修の報告、評価への取り組みの報告等を行い、地域の方やご家族からの意見を活かせるよう努めています。	10名程度の家族、自治会長、民生委員、市の職員が毎回参加している。事業所の行事(敬老会やクリスマス会)を運営推進会議時に行い、出席者に参加してもらう事で地域の理解を得ている。自治会長から体操や「脳トレ」の提案を受け実施する等、サービスの向上に活かしている。運営推進会議後に「家族会」を開催し、家族間や家族と職員の信頼関係の構築にも繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは福祉総務課の職員も参加され、意見を頂いています。また、利用者の支援において不明な点は、市役所や包括支援センターへ積極的に相談する様になっています。	年1回、市の職員が訪問して入居者と話しをする、制度や書類、運営の問題を相談する等、連絡を密に行っている。運営推進会議で市の職員から防犯・防災対策の提案を受け、市の研修に参加して、防犯対策を検討する会議を年間行事として予定する等、市との共同関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修では、不適切なケアをしない為に、チェックシート項目に沿って振り返りを行うとともに、研修担当者が対応の良い例・悪い例を実演し、日頃の対応を見直しました。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムにて見守りを行っています。	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し、「高齢者虐待防止・身体拘束廃止チェックシート」に沿って全職員が自己評価し、問題点を分析して研修を企画し実施している。研修後は全職員が感想と各自の目標を立てて実践している。半年後に再度、支援内容を自己評価して、ユニット会議で反省会を行い、次の目標に繋いでいる。これを継続して行う事で、身体拘束をしない支援を行うために、職員間の連携、協力が必要と具体的な支援内容を獲得して実践に繋いでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部研修の受講や社内研修を実施し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内で虐待が起こらないよう、言葉遣いや対応方法を見直し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については、地域包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して入居前に説明し、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの相談や意見は、受付記録用紙に記録し、事業所として対応する様になっています。ご家族の面会時や2ヶ月に1度の家族会では意見交換の場を設け、運営に反映できるよう努めています。	運営推進会議後に家族会を開催し、活発な意見交換が行われている。家族会で出された意見や要望、面会時や日常の会話の中で聞き取った内容は「受付記録用紙」に記入し、全職員で共有して研修会や全体会で実現に向けて話し合い、運営に反映している。具体的な反映例を確認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するユニット会や2ヶ月に1回開催する全体会には、代表者と職員全員が参加し、介護や現場の問題提起、解決に向けての話し合いの場を設けています。	日常的にホーム長や管理者、職員間で意見を出しやすい環境が整っている。毎朝の申し送り時やユニット会議、全体会で職員から意見やアイデアの提案があると、実現に向けて話し合い、運営に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度行っている社内研修は、職員が交代で担当し、管理者と共に研修内容を考え、実施しています。またグループホーム連絡協議会等で開催される研修へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長として、ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・裁縫等、出来ることは職員と一緒に参加して頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂ける様、ご家族との連携を密にして、面会時や毎月のかわびら通信の中でご本人の思いや願い、日頃の様子や体調の変化等を報告し、共にご本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人等の面会や、遠方のご家族との電話、ご家族と一緒に自宅への外出や外食、墓参り等、これまで大切にしてきた関係を継続できるよう、ご家族の協力を得ながら支援しています。	毎日、友人が訪問して会話を楽しむ、散歩時に地域のひとと話す、馴染みの美容室に家族と行く、近くの美容室から送迎してもらいパーマをかけに行く、家族に声をかけて、墓参りや外出、外食を促す等、入居者が地域や地域住民との関係を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう、ご入居者同士で自由に集える居場所を確保し、必要時には職員が間に入りながら、ご入居者同士の関係作りを支援しています。皆さん声を掛け合い、支え合って生活されています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談には出来る限り応じられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の「かわびら通信」の中に、思いや願いを記入する欄を設けてご本人に伺い、日常生活の中から把握してご家族にもお伝えする様にし、ご家族と協力して支援する様に努めています。	入居者の意向は日々の支援の中、食事中や入浴時のさりげない会話の中から把握している。「かわびら通信」は職員が持ち回りで作成し、暮らしの様子・最近のご本人の思い・願い・要望等の事業所からの情報発信とともに、家族の意向確認と面会等の協力支援のお願いも兼ねているものである。また、ケアプランの見直し時にも心配事や困っている事の聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常会話や生活の様子、職員間の情報共有や医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプランの見直しの際には、担当者がアセスメントを行い、現状を把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がご本人の意向の確認を含めたアセスメントを行い、ユニット職員全員参加のカンファレンスにて話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聴き、介護計画を作成しています。	7項目からなるケアチェック表にて入居者の現状を把握し、担当者がアセスメント・モニタリングを行なっている。本人の思い・願い・楽しみ・困っている事・特に注意が必要な介護等を勘案し介護計画の原案を作成する。ユニット会議で職員全員で検討し、担当者会議にて家族の意向を反映し介護計画を作成している。歩きたいとの意向にて車椅子から手引き歩行への支援追加をした事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録は、介護計画に沿って本人の思いや気付き、体調の変化等の記録を行い共有し、毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診やリハビリ通院の支援、福祉用具の紹介、他のサービスの情報提供等、柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や学校、近所の方やボランティアの方との交流を深めています。また、近所の店での買い物や理美容等、入居者の方の暮らしがより豊かなものになるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族に了承を頂いた上で、事業所のかかりつけ医より定期的に往診して頂き、24時間連絡体制を確保して、ご入居者が安心して適切な医療を受けられるよう支援しています。	定期的に協力医院の往診があり、医療との連携を図っている。かかりつけ医の受診は基本家族対応となっている。定期往診や受診後には、所見を毎月家族へ郵送し、入居者の様子を密に連絡している。認知症対応の病院や心療内科へも受診を行なっている。心身ともに安心した生活が送れるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的に来所し、体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中は面会や、家族、病院関係者との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明をし、ご家族の意向を確認し、同意を得ています。重度化した場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合いを行います。看取りについてのマニュアルの見直しを行い、これまでの個々の経験を現場で活かせる体制づくりに努めています。	看取りについては、入居時に契約書や重要事項説明書にて説明を行なっている。事業所の出来る事を十分に説明し方針を共有しながら、支援に取り組んでいる。職員には看取りについてのマニュアルにて、ターミナルケアに向けた教育と方針や支援の統一を図っている。ホーム長のお母さんを看取った実績がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、かかりつけ医の指導を受け、社内研修でも定期的に訓練を行い、確認しています。急変や事故発生時は、すぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示に従い対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年1回の消防署立ち合いの訓練の他、毎月昼夜を想定した消防訓練、地震や水害等の災害を想定した訓練を年間計画に組み入れ、実施しています。地域の方へも運営推進会議等で協力をお願いしています。また非常用食料や備品のリストを作成、備蓄し、職員全体が把握できるようにしています。	災害対策の計画書や年間行事計画をもとに、火災・地震・風水害・夜間・防犯を想定した訓練を定期的に行っている。総合消防訓練には、消防署や自治会長・民生委員も参加し、地域との協力体制を築いている。運営推進会議で参加を呼びかけたり、結果を報告している。地域ぐるみで防災に対して取り組んでいる。備蓄品のリストも作成している。職員は自己評価として非常災害対策チェックシートにて、災害に対する意識づけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護、接遇の研修を定期的に行い、チェックリストを用いて自分の対応を振り返り、職員間で注意し合っ、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努めています。	職員は入職時に個人情報やプライバシー保護の誓約書を提出し、チェックリストにて日々の支援の振り返りを行ない自己研鑽している。事業所はその結果を集計し、自己評価を支援にどう反映させるかという取り組みを行っている。職員研修の機会も設けている。入居者の人格を尊重し、嫌な思いをさせない気持ちに寄り添った言動を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご入居者の希望を聞いたり、選択して頂く機会を大切にし、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの気持ちに添って、その日の体調やどのように過ごしたいか聞きながら、その方のペースで過ごして頂ける様、見守りや声かけを行い、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みの物や着慣れた着心地の良い物を聞きながら選んで頂いたり、希望される方には、美容室へ出掛けて毛染めやパーマをかけられる様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きしたり、旬の物を取り入れています。野菜の皮むきや盛付け、配膳等、一緒に参加して頂き、食事が楽しみなものになるよう支援しています。ご家族との外食も自由にして頂いております。	玉ねぎの皮むきやゴボーそぎといった食事の下ごしらえや盛り付け等、入居者のできる事ストレングスを活かした支援を行っている。プランターで採れた野菜が食卓に並んでいる。入居者が声を揃え此処の食事は美味しいと称賛している。食事時間もゆっくりとしており、職員も一緒に食事を摂り食後の歓談も楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の体調や嚥下・咀嚼の状態等に応じて、食事形態を工夫しています。脱水症状にならない様、食事やおやつ時の他、夜間は居室に白湯を用意して、水分摂取を勧めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、その方の状態に応じた介助を行っています。必要な方には、定期的な歯科受診で、点検や掃除、義歯の調整等をして頂く様、支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表をつけ、食前食後や時間をみてトイレの声かけを行い、紙パンツやパット、下着の汚染を確認し、交換の声かけや介助を行って、清潔の保持と排泄の自立にむけた支援を行っています。	排泄の失敗がある入居者には排泄パターンを記入し、排泄の自立に向けた支援を行っている。トイレへの定時誘導と声掛けにはプライバシーを損なわないように留意している。オムツやパットも見えないところへ収納している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかり摂って頂き、整腸作用の為にヤクルト、牛乳を飲まれています。歩行や散歩、体操等で身体を動かして頂く様支援しています。排便チェックを付けて確認し、便秘しない様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やその日の気分、体調、外出の予定等に応じて曜日や時間帯を調整し、拒否のある方には声かけを工夫し、気持ちよく入浴して頂ける様支援しています。浴室での会話で思いの把握に努めています。	脱衣室には空調機を設置し、環境の配慮を行なっている。シャンプー・リンス・タオルは個人個人の物を使用している。外出等の予定がある入居者には入浴の時間の調整を図っている。季節感を味わえるよう、しょうぶ湯やゆず湯を提供している。入浴拒否のある入居者には、恐怖心や羞恥心・負担感を軽減する声掛けを行っている。体調不良時には、清拭へと変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に応じて寝具や室温の調節を行い、眠れない方にはホットミルクを出して話を聴く等、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。入浴後や昼食後等、その方の希望や状態に応じて、休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や副作用を理解し、確実に服薬して頂く為、職員が管理し、名前と日付を声に出して確認し、手渡しして服薬を確認しています。症状の変化はその都度主治医に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のドライブやお花見、行事を計画し、楽しみが持てて、気分転換が図れるよう支援しています。塗り絵、外気浴、散歩、盛り付けや洗濯物たたみ、生け花等、その方の好みや生活歴に応じた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望を尋ねながら、外気浴や散歩等、戸外に出掛けられる様に努めています。季節の花見やドライブを計画したり、ご家族と協力して、自宅への外出や外食、買い物、墓参り等に、出掛けられるよう、支援しています。	施設行事の花見(桜・菖蒲・紅葉)ドライブやおくち・ランタン見物等の外出へは、ホーム長自らが車を運転して外出支援を行っている。外出支援は気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として取り組んでいる。墓参りや外食等の個別の外出も入居者の意向を汲み、家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はご家族が管理されていますが、その方の希望や力に応じて、買い物時の支払いをして頂く等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族等から電話がかかって来たり、電話を掛けたい時にはホームの電話からかけて頂くようにして、難聴の方には職員が間に入って会話を支援しています。ご家族と手紙のやり取りをされる方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた塗り絵や作品作りをして飾ったり、季節の花を生けて頂く等しています。温湿計を設置して、エアコンや床暖房、加湿器等で快適に過ごせるように調節しています。玄関先には外気浴出来るベンチを設け、花や菜園を楽しんで頂いています。	食堂や居間に床暖房が施され、足元から温められるようになっている。壁面には入居者と職員と一緒に作った四季折々の色紙の貼り絵が飾られている。入居者が手を扶めないようにと、居間の椅子を連結したりと細やかな配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂でテレビを観たり、ご入居者同士で談話したり、玄関先のベンチに座って外を眺めたり、思い思いに過ごせる居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好きな本や雑誌等の持ち込み、ご家族の写真を貼ったり、お位牌を持参してお参りされる等、ご本人の意向に沿って、居心地よく過ごして頂ける様に支援しています。	好みの本の入った書棚や家具等を持参され、使い慣れた物で居心地よく暮らせるように支援している。筆筒にも中身がわかるように文字で表記を行っている。各居室には職員の掃除の当番表やシーツ等の大物洗濯表が貼ってあり、有無が一目でわかるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居室にはそれぞれの身体状況に合わせて手すりを設置し、居室の表札や「便所」の表示等、分かりやすく、安全で自立した生活が送れるような環境作りに努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット2階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成29年6月12日	評価結果確定日	平成29年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々が整備して下さっている花壇や川にいる水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事やドライブ等、外出の支援にも力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から、特に食事に関しては栄養管理と調理、盛付けにも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様の個性やこれまでの生活習慣を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たたみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、理念を唱和し、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づいて日々の介護に当たっています。また、行事の際は、ご入居者・ご家族・職員全員で理念の唱和を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方と挨拶や会話を交わし、近隣の保育園の子どもさん達とは毎月交流会を行っています。運営推進会議の際には、自治会長様や民生委員様より地域の情報をお聞きして、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご入居者の日々の暮らしの様子やホームの行事の様子、研修内容の報告を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くのご家族に参加して頂ける様、2ヶ月に1度、水曜と土曜交互に開催しており、暮らしの様子や行事、研修の報告、評価への取り組みの報告等を行い、地域の方やご家族からの意見を活かせるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは福祉総務課の職員も参加され、意見を頂いています。また、利用者の支援において不明な点は、市役所や包括支援センターへ積極的に相談する様にしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修では、不適切なケアをしない為に、チェックシート項目に沿って振り返りを行うとともに、研修担当者が対応の良い例・悪い例を実演し、日頃の対応を見直しました。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムにて見守りを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部研修の受講や社内研修を実施し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内で虐待が起こらないよう、言葉遣いや対応方法を見直し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については、地域包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して入居前に説明し、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの相談や意見は、受付記録用紙に記録し、事業所として対応する様にしています。ご家族の面会時や2ヶ月に1度の家族会では意見交換の場を設け、運営に反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するユニット会や2ヶ月に1度開催する全体会には、代表者と職員全員が参加し、介護や現場の問題提起、解決に向けての話し合いの場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度行っている社内研修は、職員が交代で担当し、管理者と共に研修内容を考え、実施しています。またグループホーム連絡協議会等で開催される研修へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・裁縫等、出来ることは職員と一緒に頂き、介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人等の訪問を歓迎し、自宅への外出や墓参り等を支援し、これまで大切にしてきた関係が継続できるよう、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が集える場所を作り、良い関係が築けるよう、必要に応じて職員が間に入りながら支援しています。ご入居者同士で声を掛け合って生活しておられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談には出来る限り応じられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ご家族宛に郵送しているかわびら通信の中にご本人の思いを記入する欄を設け、職員が把握すると共にご家族にも報告し、自宅への外出や外食等の希望時は、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子、職員間の情報共有や医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプランの見直しの際には、担当者がアセスメントを行い、現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人の意向を確認した上で、ユニット職員全員参加のケアカンファレンスで話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聞いて介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録は、介護計画に沿った記録をし、職員間で情報を共有し、毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診や外出の支援、福祉用具の相談等、柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に自治会で整備されている花壇の花や川の水鳥を見て楽しんだり、近隣の保育園や学校等との交流や、地域の理美容等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、週1回の往診の他、日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的に来所し、体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中は面会や、家族、病院関係者との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明をし、ご家族の意向を確認し、同意を得ています。重度化した場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合いを行います。看取りについてのマニュアルの見直しを行い、これまでの経験を現場で活かせる体制作りにも努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、社内研修でも定期的に訓練を行い、実践力を身に付けるよう努めています。急変や事故発生時は、ホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示に従い対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年1回の消防署立ち合いの訓練の他、毎月昼夜を想定した消防訓練、地震や水害等の災害を想定した訓練を年間計画に組み入れ、実施しています。地域の方へも運営推進会議等で協力をお願いしています。また非常用食料や備品のリストを作成、備蓄し、職員全体が把握できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声かけは、さりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安な気持ち等から、同じことを繰り返し尋ねてこられる方には、その都度思いを受け止め、安心できる言葉掛けをしたり、希望を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースを大切に過ごして頂けるよう、見守りや声掛けをしながら希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切る、或いは行きつけの理美容室へ出掛ける等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等、お一人おひとりの力に応じて、職員と一緒にして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた食事量、食事形態等で提供し、必要な声かけや介助を行い、栄養面では主治医に相談しています。夜間も声かけをして、水分を摂って頂くよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけやご本人の状態に応じた介助を行っています。定期的な歯科の往診により、口腔内の点検や指導をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンに応じて、トイレの声かけや介助を行い、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの好みや状態に合わせて食事や飲料の工夫をし、食事や水分をしっかり摂って頂き、運動や歩行を行うことで、なるべく下剤に頼らないよう、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分、予定等に合わせて、早めに入って頂いたり、遅く入って頂けるよう工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調節を行い、眠れない方には飲み物を出して話をお聴きする等して、安眠の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬を把握し、症状の変化に応じて主治医に相談し、薬の調整をしております。錠剤・散剤等、ご本人が飲みやすいように主治医に相談し、きちんと服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴等に応じて、盛り付けや洗濯物たたみ、塗り絵や歌、外気浴、散歩等、楽しみごとや役割の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、玄関先での外気浴やホーム周辺の散歩に出掛け、季節ごとにドライブやお花見を計画しています。本人の希望に応じて、墓参りや自宅への外出等、ご家族の協力を得ながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理はご家族がされていますが、その方の希望や力に応じて、買い物時の支払いをして頂く等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話が掛かって来た時は、ご本人に取り次ぎ、いつでも交流が出来るようにしています。また、毎年賀状を書ける方には書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置して、ご入居者が快適に過ごせるよう調節し、季節感が感じられるように季節の花や作品を飾ったり、七夕やお雛様等、季節の飾りつけをして、居心地よく過ごして頂けるように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で好きなテレビを観たりして一人でゆっくり過ごしたり、食堂で気の合った入居者の方と談話する等、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、家具や寝具を持ち込んで頂き、希望によりお位牌や写真を置いてお参りされている方もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはそれぞれの身体状況に合わせて手すりを設置し、通路は歩行の妨げにならないよう整備して、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援しています。		